

# グリーンサークル24号

クローズアップ・宮内泰之  
活動団体を訪ねて・豊ヶ丘小学校林再生プロジェクト/和田緑地保全の森  
多摩市みどりのかわら版・引地毅



ヒヨドリジョウゴ

～クローズアップ～

## 樹木観察の通勤経路 恵泉女学園大学 宮内泰之



多摩ニュータウン（以下NT）の特徴の一つともいえるべき歩行者専用道は、歩くたびに新たな発見をもたらしてくれます。以下では、私の通勤経路沿いの魅力の一端をご紹介します。

駅に降り立つと、まずパルテノン大通りのクスノキの並木が目に飛び込んできます。まさに「ビスタ（見通し線）」というごとく、でもなぜか、その軸線の先に強調されるものはパルテノンの大階段です。特に夏は「大階段なんか絶対に上りたくない」、と思わせてくれますが、その反面、クスノキがつくる木陰は緩い坂を上っていく足取りを軽くしてくれます。大階段手前の歩道橋からは、クスノキの樹冠を観察することができます。歩道橋から普段とは違うアングルで樹木を観察できることが、この歩行者専用道の優れた点です。

左折してグリーンライブセンターの脇を上っていくと、中央公園の県木の道へと続きます。朝、この緑に囲まれた道を歩いていると、「なんて恵まれた通勤経路なのだろう」、と思わずにはられません。また、NT開発の当初、裸地に植えられた公園の木々が、約40年を経てこれ程までに大きく立派に成長したことを思うと感慨深いものがあります。新たな気づきもありました。早春にこの道を歩いていたところ、アカシデの枝先の新芽がとてもきれいに赤く色づいており、「なるほど、これが名前の由来なのか」、と改めて納得しました。図書館へのロータリー脇では、アブラチャンが黄色い花を見せてくれます。早春はふだん地味な木が目立つ季節でもあります。

雑木林の萌芽更新を説明する看板を見ながら坂を上っていくと、やがてどんぐり山公園が見えてきます。多摩グリーンボランティア森木会が今日のように発展してきたのも、このどんぐり山の保全活動が出発点だったと思い起こさせてくれます。

歩道橋を越えてしばらく行くと、そよ風の道に出ます。ここのケヤキ並木は、まさにそよ風の道という名前にふさわしく、特に新緑の季節が心地よい通りです。よく見ると、団地の南側に面しているケヤ

キの方が、強く剪定されているのがわかります。団地の日当たりを確保するためには当然のことですが、丁寧に枝抜き剪定がなされているので、違和感はありません。

さらに進むと恐竜橋（なぜこの名前？）から、早春には落合中学の法面に植えられた紅白のウメが美しく咲き誇っている情景を眺めることができます。落合中学から落合団地脇を通り、一本杉橋に至る道はマテバシイです。毎年秋にはたくさんのドングリが落ちていることから、カシヤナラのように隔年結果はしないことに気づかされます。近くの園児たちが嬉しそうにドングリを拾っている姿を見ることができます。今年の学園祭では、このマテバシイと一本杉公園のスタジイのドングリをゼミ生と一緒に拾い、ドングリおにぎり（恵泉米）を作りました。ただし、実際に作ったのはゼミ生で、ドングリの薄皮剥きに悪戦苦闘していました。出来上がりはクリよりも少し硬くて甘さ控えめの素朴なおいしさでした。



そよ風の道

一本杉橋からは、富士山を遠くに望むことができます。宝野公園のソメイヨシノのビスタの先の富士も素晴らしいですが、通いなれた道から見える富士にはより一層愛着がわきます。そして、一本杉公園を抜けると、やがて恵泉に到着します。

この道を歩いていつも思うことは、うちの大学の学生にももっと歩いてもらいたい、ということです。ちょっと距離があるので女子大生には難しいのかもしれませんが、しかし、日常的に学生が歩いているだけで、公園の中に街があると賞されるこの多摩NTは、さらに活気のある街になるはずです。そして、恵泉女学園大学もNTの方々にもっと親しんでいただける大学になっていきたいと願うのです。

宮内 泰之（みやうち やすゆき）

千葉大学大学院園芸学専攻科博士課程修了。農学博士。恵泉女学園大学準教授。環境デザイン実習等担当。多摩グリーンボランティア森木会顧問。多摩市グリーンボランティア講座初級の講師

## ～活動団体を訪ねて～ 豊ヶ丘小学校学校林活用・再生プロジェクト委員会

豊ヶ丘小学校学校林活用・再生プロジェクト委員会代表 加藤 明美

### 豊ヶ丘小学校学校林について

豊ヶ丘小学校の西側斜面にある7100m<sup>2</sup>の樹木林は、東京都の学校林としては、最大の広さを持っています。木の種類はコナラ、クヌギを中心とした雑木林で地面には、多摩でも少なくなったキンラン、ギンラン、タマノカンアオイ、タツナミソウなどが見られます。

学校教育の中では植物観察、鳥や虫についての勉強ばかりでなく、アスレチックを設置した遊びの場としても活用されて学校の宝になっています。そうした貴重な自然環境ですが、以前の様に木を伐採して炭や薪にすることがなくなったことで木が大きくなり過ぎたり、地面に適度な日光が届かない所も出てきました。そこで、将来もこの学校林を維持していくために、平成25年度に「豊ヶ丘小学校学校林活用・再生プロジェクト委員会」を立ち上げました。

立ち上げに当たってはグリーンボランティア連絡会にご相談して林の管理についての基礎的な知識を学ぶことから始めました。作業計画の話し合いや伐採作業に参加していただきより良い林の状態を考えています。

### 主な学校林整備作業

1年間の整備作業は新学期が始まる4月に合わせて始まります。4月末に学校林公開週間を設けて春に咲くキンラン、ギンラン、タマノカンアオイなどを保護者や地域の方にみてもらっています。

林の保全のため、下草刈りや枝打ち、伐採などの整備作業は年間に6回行います。

雑木林ゾーンはアズマネザサの伸びがはやいので手間がかかりますが、年々春に見られるキンランの数が増えることを張り合いにがんばっています。

秋には葛でクリスマスリースを作ったり、枝を集めて行う焼き芋会も恒例です。2月には切り倒したコナラをほだ木にシイタケのコマ打ちをします。子どもたちも散策路に案内板を作ったり、チップを撒

いて歩きやすくしています。助成金を使って必要な道具は揃ってきていますが、安全に使いこなすまでにはメンバーの意識をあげていかなくてははいけないと思っています。お父さんの参加も呼び掛けていきたいと思っています。

### 豊ヶ丘小学校学校林のゾーン区分

学校林は地形や利用・管理状況から3つのゾーンに分けることができます。

1つはアスレチックゾーンです。南西方向に窪んだ地形で南側の斜面は樹林が疎で明るく、中央部分には樹木を活用してアスレチック遊具が置かれて子どもたちの遊び場になっています。

2つ目は雑木林ゾーンです。南北に伸びる2本の尾根にはさまれた南側に向いた扇型の地形をしています。樹木が密生していますが、キンラン、ギンラン、タマノカンアオイなどが数多く見られます。

3つ目は多様種ゾーンです。北西方向に窪んだ地形で、一部は切り開かれた空地になっています。イチョウが新たに植えられていたり、潜在種以外のものもみられます。

### 子ども達とともに

豊ヶ丘小学校では総合の時間に学校林に関する勉強をしています。学校林のいいところを探し、みんなに伝える。きつい斜面に歩きやすくするための階段を作ったり、草刈りも経験しました。学校林の中で楽しい遊びを考えたり稀少植物を保護する方法を話し合ったりと年々活動が広がっています。

今年5回目になる「豊ヶ丘の自然学校」は国士館大学の協力で2泊3日を学校林で寝起きして過ごします。夜の学校林、夜明けの学校林を見る経験は子どもたちの思い出に残っていきます。

#### 活動日や連絡先

連絡先：多摩市立豊ヶ丘小学校

電話：042-371-3341

<http://www.tama.ed.jp/toyogaoka/index.html>



散策路の階段の補修(6年生が5年生に教えます。)



シイタケのコマ打ち(学校公開で地域の方も参加)



豊ヶ丘の自然学校で作った秘密基地(7,8人でここに寝ます)

～活動団体を訪ねて～

## 和田緑地の会

### 代表幹事 大井 幸夫

「和田緑地の会」は、2016年6月に設立された、多摩市で最も新しい緑地グループである。

多摩市の北西部にある「みどりの拠点」のひとつ「日野市境拠点」。最北部の「なな山緑地」に発し、みどりの帯の最南端を構成しているのが「和田緑地」である。いわば「なな山緑地の会」の「弟分」といったところ。

#### 多摩市で最小・最少の緑地

面積は3,188㎡。フットサルコートに換算すると4面分くらいの、多摩市で最小の緑地である。会員数は8月末現在で10名。多摩市で最少のグリーンボランティア組織でもある。会員の大半は和田地区の居住者。緑地まで10分以内と、ローカル色が強い。年齢層も比較的若く、子連れの参加者も多い。

“アマチュア色”が強いのも会の特徴だ。なな山緑地の会と掛け持ちの数人を除けば、グリーンボランティア森木会の初級講座受講者は1人もいない。機械を使える人はごく少数。会も会員もまだヨチヨチ歩きだ。

#### スロープ、散策路を整備

緑地は高さ約10メートルの台地状になっており、コナラ、クヌギ、ヤマザクラなどの落葉広葉樹が広がる。春にはキンラン、フタリシズカ、ナルコユリなどが可憐な花を咲かせる。40段の階段（男坂）で台地に上れるが、シニアにはちょっときつい。楽に上り下りできるように、5、6月の活動でスロープ（女坂）を付けた。山上には「8」の字状の散策路を整備、広場には丸太のベンチを置いた。作業の合間にここでお茶やお弁当をとるのも楽しい。

活動のスタートは、他の緑地のように「ぜひ守りたい緑があった」からでも、「受講者が自主的に集まった」からでもない。多摩市から、保全活動への協力要請があったのがきっかけだ。これを受けて、近接のなな山緑地の会と地元の自治会の有志を中心にボランティア運動が動き出した。自治会内に回覧板を回し、掲示板にポスター

を貼り、ボランティアを募集した。なな山緑地の会のメンバーの協力も大きかった。和田緑地の毎月の活動報告は、連絡網に載せて なな山緑地の会のメンバーにも送信、次月の活動予定も周知されている。実際、毎月の参加者のほぼ半数はなな山緑地の会のメンバーだし、その緑地管理のノウハウも貴重な戦力だ。

#### 子どもたちが自然を楽しめる緑地に

道具類もゼロから始まった。当初は、なな山緑地の会からすべての道具を借りた。「多摩街づくりファンド」の助成金を受けて、物置、刈払機、熊手、スコップ、鋸、ヘルメットなどの資機材がひと通り揃ったのは8月末だった。ヒトの面でもモノの面でも、なな山緑地の会みなさんの協力がなくては、和田緑地の活動はスタートできなかっただろう。

しかし、活動を始めてみると、中々味わい深い緑地だと感じられるようになった。ミニ緑地としての身近さがいいのだろうか。毎月の参加者は4～8人だが、9月の活動で初めて2ケタとなった。歩みは少しずつだが輪を広げつつある。

メインの作業は、下草刈、落ち葉掃き、散策路の整備、植物観察、希少植物の保護など。今はそれぐらいで精一杯だが、いずれ、野鳥の巣箱作り、シイタケ栽培、ネイチャーゲームなど「森を楽しむ」企画を増やしたいと考えている。そのためにも、自治会、子供会、青少協などの地域団体とコラボしていきたい。

#### 活動日や連絡先

活動日：毎月第1土曜日午前9時～14時

連絡先：多摩市立グリーンライブセンター

電話：042-375-8716

e-mail：wadaryokuchi@gmail.com

ブログ：http://wadaryokuchi.blog.so-net.ne.jp/



山上の散策路。夏はアズマネザサがびっしり茂る



コナラ、クヌギ、ヤマザクラが茂る和田緑地



植物観察は小学生も参加

## 多摩しみどりのかわら版

## 公園デビュー

## 多摩市立グリーンライブセンター 引地 毅

私の公園デビューするきっかけを話す前に、若干プロフィールを紹介させていただきます。市役所を定年退職し、グリーンライブセンターで伊藤さんの後任で再任用をされており、現在、グリーンライブセンターは4箇所目の職場になります。

さて、私の公園デビューのきっかけですが、公園は大の大人としては、縁遠い存在で、普段は公園を横目に通り過ぎるだけだったのが、子供ができてからは、休みの日に外で遊ぶために、すぐ近くの砂場と滑り台だけの団地内の小さな公園にデビューしたのが最初でした。子供の成長につれ、自転車に乗る練習のため広場のある公園を探していたところ、町田市立野津田公園(町田市野津田町 398,268 m<sup>2</sup>)に広いスペースがあるのを知り、早速、自転車を車に積んで練習に行きました。このように、公園を知るきっかけは子供だけではなく、犬(ゴールデンレトリバー)を飼うことによっても、家の近くに様々な公園があることを知ることになります。特に我が家の犬はロングディスタンス(長い距離)の散歩をするので、半径2km(自宅は瓜生緑地 永山 22,039 m<sup>2</sup>の近く)の公園緑地は全て踏破することになります。特に愛犬は一本杉公園(南野 101,469 m<sup>2</sup>)とよこやまの道(諏訪 108,937 m<sup>2</sup>)で、



愛犬 ソレイユ



よこやまの道から望む初日

自分からぐいぐいと引っ張って行く程、気に入っているようです。犬の散歩をしてみると分かるのですが、人がただ単に散歩する視線と違って、犬は地面を嗅ぎながら這うように歩くので、普段は気づかない所まで発見することができます。

雑木林は人の視線から上の方は大方コナラ・クヌギに覆われていますが、犬と地面を這うように歩いていると下草の手入れ具合はどうかかと思うことがあります。しかしながら、一番気になることは、計画的に植林しているものとか自生している灌木が人間の視線を遮ることがあり、これは雑木林の中の死角を作ることにもなりかねません、見通しの利く雑木林は野鳥や野生の動物などとの相対することの無い共生できる空間であったり、安心して散歩をしたり腰を下ろしてひと時の憩いを楽しめる空間かなと思います。また、雑木林をより良く保護する観点からも灌木の手入れ(除去)が大事であるといわれています。

まだまだ、足を踏み入れてない緑地も数多くあります。これからは機会あるごとに雑木林デビューをして行きたいと思っておりますので、グリーンボランティアの皆様のご協力をお願い致します。

## 編集後記

ある晴れた日の午後、グリーンライブセンターのガーデンで可愛らしい声が聴こえました。シジュウカラです。多くの人に馴染みのある野鳥なのではないでしょうか。体の大きさはスズメほどのシジュウカラ1羽が、1年間に食べる虫の量をガの幼虫に換算すると、12万5千匹も食べるんだそうです！食欲の秋で栗やお芋が美味しい季節ですが、シジュウカラの真似をして食べ過ぎないように注意しましょうね！(高澤 愛)



シジュウカラ

## 表紙の絵

## 「ヒヨドリジョウゴ」(ナス科)

雑木林などで時々見かけます。

名前の由来はヒヨドリが好んで食べるからとか・・・。

赤くてきれいですが有毒ですのでご注意ください。

## 絵・内城 葉子

<プロフィール>1949年東京生まれ。

1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal受賞など

<所属>日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書>「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが詳細に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴です。

## 多摩市立グリーンライブセンター

住所：東京都多摩市落合 2-35

tel.042-375-8716 FAX.042-375-0087

交通：京王線・小田急線・多摩モノレール

「多摩センター駅」より徒歩7分

ホームページ：<http://www.keisen.ac.jp/tglc/>

開館時間：9時30分～17時

休館日：毎週月曜・第4火曜(祝日の場合はその翌日)

年末年始：12月29日～1月3日